ゴミ埋立地を見学して

小川開アパート地域分会長　左藤臣芳

見た支配者三井の姿

一日も早く恒久対策を

「お父さん、市役所に行くのならゴミをきちんと取りにくるよう、念を押すのですよ」

玄関をでるとき、家内がメクジラを立ててどなる。私がアパートを代表して、市のゴミ処理場を見学に行くというウワサは、かなり団地夫人の関心をよんだようだ。

日曜日というのにどんよりと曇り、市役所前は三池労組の各地域住民代表に市職労の清掃改善推進委員会のメンバー多数が集り、さっそくニュースカー〝はたかぜ〟〝あしなみ〟に分乗して出発した。

連称、健老町地先の三百間という海岸線一帯は本当にだだっ広い。私は大牟田に住んで二十年、はじめての展望はただ驚きばかりだった。

案内の市職労の副委員長さんが「くさいですよ。足元に注意して…」と、笑いながら先頭に立つ。いままで多くの見学者を案内しているとみえ、状況説明にも「ゴミ戦争」と闘う憤怒が感じられた。

たかがゴミ捨場見学ぐらいの安易な気持で、家内たちの頼みを「まかしとけ。ケンカしてきてやる」、といったバカな気持でアパートをでた私だったが、あまりにもきびしい現状の説明を聞き、七十万ヘーベ（約二十一万坪）という広大な三井独占の私有地を目のあたりにするとき、大牟田の縮図を痛い程感じた。

巨大な三井の空地の一角の一万ヘーベ（一号マス）を四年前から細々と借り、しかも埋立ての法的限界どころか、無残にもヤマ積みされたゴミの山が、そのせまいスペースにのたうっているのである。この現実こそ、三井を軸にすべてが回転する大牟田そのものではないのか。

「ちくしょう」、私はあらためて怒りがふきだす。

「早く恒久的なゴミ埋立地を確保しよう」と、市職労はその階級的立場をも犠牲にして、市民の奉仕者として、十年前から呼び続けてきたものだった。しかし、行政の失態を住民にしわよせし、三井の鼻息ばかり気にする市長一派ドモはそれを無視し、放置してきた結果が今日の醜態となっているのである。糞尿処理問題もしかりである。

大牟田市民はブタなのだろうか。なぜ怒らないのだろう。

「市民は自宅のゴミ箱がきれいになれば、他人なんか知ったことではないのですよ」

改善委員会のメンバーが指摘するまでもなく、それは私にもあてはまる直言なのである。正直なところ、今日の体験をするまで市清掃課に対する「ゴミ集収の苦情」だけとしか、頭の中になかった私だった。本当にバカにされたかっこうだ。あの「ゴミ埋立地」を直視しただけで十分。も早や焼却工場見学なんか付録みたいなもので、今後三井と対決するファイトの血となり、肉となる貴重な体験の一日だった。

×

七夕地域分会の佐保利雄さんからも、感想文をいただいております。次号で紹介させていただきます。

泣いている立看板。ゴミの山のすぐ隣りに、三井がひとり占めにしている土地が展開している。約21万坪。ゴミ捨て場はこの通りあるのだ。

係長殿へ

私たちの職場では各種研磨機によるサンダー粉、サビ、鉄粉などの舞粉によって、息もできない状態です。このまま放っておくと、短期間でじん肺間違いなしです。

一日も早く安全で、健康的な職場をつくってください。

×

三川職場九分会新聞〝はぐるま〟（九月十五日発行）から。

退職の人びと

このたび、次の方々が停年退職のために、三池労組を去られました。でも、わが国の情勢は私たちがいっそう固く手をとり合い、前進してゆくことを求めています。どうかご退職の皆さん、いつまでもお元気で、ともにたたかってまいりましょう。

×

宮浦指導部関係

瀬口　実さん
停年の日　六月三十日。
お住まい　大牟田市大字勝立一二八―一

吉田　光輝さん
停年の日　七月十九日。
お住まい　大牟田市大字草木八〇五。

吉田さん

言葉「在職中は大変お世話になりました。今後組合員の皆様方には、保安闘争と統一活動を強化され、災害のない明るい職場づくりのため頑張ってください」。

伊藤　義光さん
停年の日　八月三十一日。
お住まい　大牟田市笹林町二丁目四―一〇

田代　幸夫さん
停年の日　九月一日。
お住まい　大牟田市新勝立町二丁目五七棟。

田代さん

坂本　嵐さん
停年の日　九月一日。
お住まい　大牟田市新勝立町二丁目五七棟。

坂本さん

四山指導部関係

芝田　実喜さん
停年の日　九月二十二日。
お住まい　荒尾市大島社宅。

三川指導部関係

出口　末義さん
停年の日　九月二十二日。
お住まい　荒尾市万田社宅万町

×

折角お言葉をいただきながら、中には紙面のつごうで割愛させて頂きました。お許し下さい。

【編集部】

停年の日　九月十日。
お住まい　大牟田市新勝立町三丁目通松社宅三棟。

今村　進さん
停年の日　九月十三日。
お住まい　大牟田市新勝立町二丁目通松社宅二二棟

本田　正憲さん
停年の日　九月十七日。
お住まい　大牟田市新浜田町四―三。

手記

今やっとよろこびが

職場の便所で泣いたこともある

関東不知火会　道岡茂

大牟田の地を、地域の人達や仲間の皆さんに見送られて出発。希望と不安一パイの上京でした。

首切られる気持をあじわうのは俺一人で沢山だ。

長男の俺の解雇で、としをとった父親への不安。妹弟の行く末への不安。こんな気持を、絶対に子供達にあじあわせたくない。

妻の不安な目。

会社から内容証明付の書留を受け取った瞬間の父。

妹弟、妻や子供達は今後どうなるかと、目の前が真っ暗になったときの気持。

地域の人達の励まし。仲間に支えられ闘った一年間。ホッパー闘争では本当に、ここで死ぬ覚悟で参加した機動隊だった。

全国指名手配で新聞にのり、ニュースカー〝はたかぜ〟で仲間に見送られ、警察に拘留の身となり谷端支部長と二人でブタ箱生活。何一つ調べもしない警察。

一年間の闘いの日々がいま、走馬灯のように頭の中を掠める。

×

朝五時に起き、夜一時三時まで関東の冬の寒さも感じない毎日。なれない帳簿整理、集金の計算。

妻と二人で働いて一万円の手取り。幼稚園、小学校、中学校と三人の子供。五十万円の退職金が少しずつ減ってゆく不安。

福岡の裁判所への出廷も、上京後一度も行けない心の焦り。

牛乳販売店の売り上げの心配。仕事上の責任。こんなはずではなかったが……。

将来の不安にたまりかね、家族とも話し合い販売店を退職。退めたとたんに、三池の仲間の顔、地域の人達の声が……。

二カ月くらい近所の町工場でバイトをしながら新聞の就職案内を見て、地図を片手に東京都内の会社を受験に回った日々。

一次、二次の試験に合格し、身元調査で不合格となる。しかたなく最後には、履歴書に九州で農業をしていた、と記入してようやく合格する。

就職した書籍取次会社で人の二倍、いやそれ以上も働いた。私の子供よりとしの若い職員にいやがらせをされ、便所のなかで男泣きしたこともあった。

一年くらい過ぎて会社の仕事も少しは覚え、心のゆとりも出来、会社に内緒で、福岡の裁判に出廷した。

会社に内緒で早退し、東京を夕方五時頃発の特急に乗車。博多駅着が翌朝の九時頃で、さっそく裁判に出廷。二日間の公判を、裁判長の許可を受けて一日だけにしてもらい、再び仲間にはげまされながらそのまま特急に乗り、東京に着くのが三日目の朝の九時。そのまま会社に出勤。

長女の美智子が中学校の修学旅行に行った時のこと、妻が小遣い千円を持たせたのに、三百円だけ持って出て、七百円はそっと玄関に置き、「弟達に何か食べるものを買ってやって下さい。私は、旅行されるだけで幸せです」、と書き添えていた。このときばかりは妻と二人で泣きました。

私達親子は、「今生活に負けたらダメになる」と歯をくいしばり励し合った日々でした。

ちょうどそんなときに政転闘争の上京団が三池から上京。東京駅に行き仲間の皆さんと逢い、はげまされ、元気づけられたのです。

会社に勤めては、いつ履歴がばれるのでは、という不安。電話のベルがなるとドキッとなり、身長一メートル七十三センチで、体重は四十五、六キロ。一日とて、心のやすまることはなかった。

ここで三井資本に負けてなるものか、とようやく家を新築できた時の喜び。父は、それから四カ月後、新築した家で亡くなりました。寝ていて天井を見ながら「良い家だね」、と口ぐせにいっていましたが……。

長女は中学校を四度も転校。少しもくじけず、弟達を励して、三年のとき中学校代表（男、女各一名）の優良児童として、船橋市から表彰を受けましたが、友人を大切にする、すなおに育った娘に妻と一緒に喜んだものです。

三池の先輩、仲間の皆さんに励まされ、助けられて生きてきた十五年でした。

×

道岡茂さんは、元三川支部に所属してたたかわれた人で、現在千葉県船橋市三咲町三七八―二三にお住まいになっています。がんばってください。

なお右の文章は、本紙前号で紹介したパンフレット〝しらぬひ〟に掲載されているもので、紙数の関係から、いくらかやむを得ず割愛じなければなりませんでした。お許しくださるよう。